

図書館だより

Information Wave No.29 2018年

第29号 2018年8月20日発行

関西福祉大学図書館

〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3 Tel.0791-46-2506 Fax.0791-46-2535



未来に憧れること それは人類の叡智

【未来に憧れること、それは人類の課題】 約200年前、教育者ペスタロッチは著書『シュタンツ便り』で、教育と教育学の基礎を人類の希望と憧れ（ユートピア）として描きました。

「…見捨てられた子どもたちにも与えられた人間の本性の諸力を私は信じていましたので、この本性は…きわめて立派な素質と能力を発展させるということを、私のこれまでの経験が教えてくれました。…私は子どもたちのなかに、…これらの本性の生き生きとした諸力がいたるところで発現するのを見出しました。…／こうしてわたしは、…あたかも、春の陽光が冬の凍てつく大地を溶かすように、私のこころが子どもたちの状態をすみやかに変えるであろうことを確信したのです。／私は間違っただけではありませんでした。…私の子どもたちは見違えるようになりました。」（『シュタンツ便り』（森川直訳-本学元図書館長））

この記述は民衆に公教育が届くことのなかった時代のものです。彼の純朴な視線の背後に、18世紀末の厳しい時代に人類のユートピアを前進させたいという強い悲願がありました。

【人間を温かく見守ること、それは人類の才能】 ところで人類は、思想の分野だけでなく、文学、評論、詩歌等々の分野でも「未来」を夢見、人間への「希望と憧れ」を積み上げてきました。18世紀『寛容論』を書いたフランスの思想家ヴォルテールは、宗教弾劾の非を正そうと時の政治家たちに書簡を書き、「寛容であること」を訴えました。またドイツ・ナチズム時代に子どもへの信念を持って生き抜いたエーリヒ・ケストナーは『飛ぶ教室』で、つらいことがあっても気を落とさず、勇気とかしこさをもって乗り越えていく子どもたちの姿を描きました。

わが国でも、このようなヒューマンズムの思想は文学に受け継がれました。後に九州大学の特任教授となる高樹のぶ子の文学作品『光抱く友よ』では、戦後の貧しさの中で、悩み多い友人を「光抱かれし」友として受け止め、友人の存在を温かい、繊細な目線で描き出しています。このような文学上・芸術上のヒューマンズムは、近年では、ケストナーの影響を受けた現代作家、宮下奈都によって受け継がれ、小説『よろこびの歌』では、思春期真っ只中にある主人公たちの複雑で繊細な心の動きと、傷つき、悩み、よろこびとが若者への讃歌として描き出されています。

【未来への憧れ、それは人類の夢】 昨年創立20周年を祝いました本学では、本年4月大学院教育学研究科が発足しました。そして4月3日には、社会人マスター生三名、学部からのマスター生二名、合計五名が専門的な勉学と研究を深めたいと憧れて入学して来ました。本学では、現代のひたむきで実直な若者がく看護・社会福祉・教育に惹かれ、集まり、育てられていますが、更に加えて、教育スペシャリスト人材養成を目指した教育学研究科にも集まり始めています。私たちはこの流れを細やかな配慮をもって大切にしたいと思います。



教育学研究科長
教育学部
教授

鈴木幹雄

性的虐待を受けた子どもの施設ケア ー児童福祉施設における生活・心理・医療支援ー



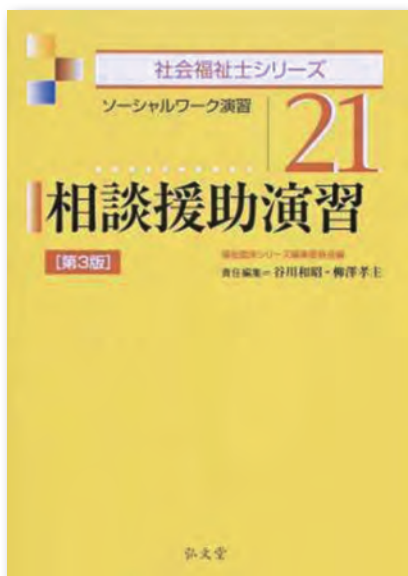
著 者：八木修司・岡本正子編著
出 版 社：明石書店
発行年月：2017年12月

社会福祉学部 教授 八木修司

児童虐待は今日の子どもにおける最も深刻な問題です。全国の児童相談所が平成28年度に対応した児童虐待の件数は122,578件です。調査を開始した2年度から26年連続で増加しています。その件数は、①心理的虐待、②身体的虐待、③ネグレクト、④性的虐待の順ですが、その内、性的虐待は1,622件です。一見少ないように思われがちですが、虐待の中でも発見しにくい『最悪の虐待』です。その支援や心理ケアはデリケートで難しい。性的虐待を受けた子どもとその家族に児童福祉施設ではどのような支援とケアを行うべきかを、子どもの入所から自立までの流れに沿い、実践場面で必要とされる生活支援、心理ケア、医療、自立支援などの知識と対処方法をわかりやすく解説しています。

将来、児童福祉施設や学校、病院勤務などをを目指す学生や卒後3年～5年の若手の職員のために編纂しました。編著者である私（八木）とともに社会福祉学部の高田豊司先生も執筆されています。『闇の問題』と思わないで是非一読下さい。

相談援助演習 [第3版] ーソーシャルワーク演習ー 【社会福祉士シリーズ21】



著 者：福祉臨床シリーズ編集委員会編
谷川和昭・柳澤孝主 責任編集
出 版 社：弘文堂
発行年月：2018年3月

社会福祉学部 准教授 谷川和昭

本書は、福祉臨床シリーズ編集委員会が、社会福祉士及び介護福祉士法の2007年改正を機に全22巻でシリーズ化した出版物です。第21巻にあたるのが本書ですが、執筆者は総勢24名という多彩な顔ぶれで、サイズはB5版、総頁数が261頁の体系書として世に問うこととしました。

初版発行は2008年11月、第2版が2014年1月、当初より編者の一角を担った理由は、第1に2000年代前半に約3年間、日本社会福祉士養成校協会（現在の日本ソーシャルワーク教育学校連盟）の研修委員会構成員として教育責任の一端を感じていたこと、第2に委員会業務において大勢の識者と交流を深められたこと、第3に故人である先輩への何よりも恩返しをしたいと考えたこと、そして第4に10年一昔とはよく言ったものですが、所謂、国際ソーシャルワーク学校連盟／国際ソーシャルワーカー連盟が2014年7月総会で採択した「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」の存在があったことにあります。

グローバル定義では、「ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。」とあります。本書の営みは、まさにウェルビーイングを高めるよう、人々（学生）やさまざまな構造（教育機関）に働きかけるプロセスに他なりません。本書を手にとって、少しでも幸せづくりに関心を寄せてくだされば望外の幸せです。

絶望の国の幸福な若者たち



著 者：古市憲寿
出 版 社：講談社
発行年月：2011年9月

教員
& 学生
も推薦!

社会福祉学部 教授 溝 端 剛
社会福祉学部 2年 藤 本 実 里

教員が推薦する本で面白いものはないと思ってきた私が、教員としてその役を担わなければならなくなりました。心許ない限りです。

そこで藤本さんにまず読んでもらい、感想文を書いてもらいました。「個人的な本で、私たちにとってリアルなもの—ツイッターやSNSなどに触れられており、面白かった。10年後、20年後の私たちについて考えさせられる本でした」。

藤本さんに力を得て、この書物を紹介することにします。本書は、著者が26歳の時に書いた、若者による現代若者論です。「もはや今の若者は素朴に『今日より明日がよくなる』とは信じることができない…。だからこそ、『今は幸せだ』と言うことができる」。「彼らは『社会』という『大きな世界』に不満はあるけれど、自分たちの『小さな世界』には満足しているのである」。「若者たちが『今、ここ』にある『小さな世界』の中に生きているならば、いくら世の中で貧困が問題になろうと、世代間格差が深刻な問題であろうと、彼らの幸せには影響を及ぼさない…。」どうでしょうか。本書を鏡にして、自分自身を振り返って見てはいかがでしょうか。

少し難解な書物ですが、千葉雅也氏の『動きすぎてはいけない』（河出書房新社2013年）もお勧めです。「接続過剰」（ネット依存）と「切断過剰」（引きこもり）の両極端の中で、「動きすぎるな」というメッセージを発信しています。

教員
おすすめ

ひとりひとりの人 — 僕が撮った精神科病棟 —

社会福祉学部 講師 平 林 恵 美

この本は写真絵本です。雑誌の仕事で精神障害者を撮影することになったカメラマンが写真と文章を担当しています。

著者は当初、精神科病院に良い印象を持っていませんでした。しかし、患者さんの日常に足を踏み入れ交流を重ね、豊かな表情、多様な個性、それぞれの人生に触れることにより気持ちが変化していきました。それは、精神科病院にいる“患者”ではなく、かけがえのないひとりひとりの“人”として向き合っていたからだと思います。

精神科の入院患者と一括りにされてしまうことが多い彼らですが、それぞれが一度しかない尊い人生を懸命に生きています。私たちと同じように、今の時間を生きています。読み進めていくと、私たちと彼らを隔てるものは何もなく、皆同じ人間なのだという当たり前のことに気づかせてくれます。そして読み終えた時には、彼らが病院から出て自分らしく暮らしている姿を見たいと心から感じるのではないのでしょうか。



著 者：大西暢夫
出 版 社：精神看護出版
発行年月：2004年6月

オオカミ少女はいなかった — 心理学の神話をめぐる冒険 —

教育学部 教授 大山摩希子



著 者：鈴木光太郎
出 版 社：新曜社
発行年月：2008 年 9 月

皆さんは「オオカミに育てられた子ども」というお話を知っていますか。森に捨てられた人間の赤ちゃんを、オオカミが母親代わりとなり育てるというお話です。「オオカミにも母性があるのだ」という美談として、あるいは、『ヒト』が『人』になるためには、環境がとても大切である」ことを認識する話として知られています。時として、心理学のテキストにも掲載されてきた内容でもありました。

今回ご紹介する本は、何の抵抗もなく多くの人たちに受け入れられてきた「オオカミに育てられた子ども」というお話を、別の視点から考え直すきっかけを与えてくれます。物事には色々な見方や考え方があります。是非読んでみて下さい。

運は操れる — 望みどおりの人生を実現する最強の法則 —

教育学部 准教授 木原加代子



著 者：メンタリスト DaiGo
出 版 社：マキノ出版
発行年月：2018 年 3 月

ここ一番で運が味方をしてくれたらどんなに助かることでしょう。社会に出る準備をしている皆さんに、今学んでいる知識とは少し違った角度の本を紹介します。

本書は、メンタリストのDaiGoが、「運は操れる」という考え方を述べたものです。

「運の源泉は知識にあり、どんな行動を起こせば、不運を遠ざけることができるのか。どんな準備をしていると、幸運に気づくことができるのか。どんな習慣を身につければ、運を持続的に味方にするすることができるのか。」

等、「運を操る力」をつけるための考え方が科学的に書かれています。

実力と運の強さで、望みの人生を手に入れましょう。



著 者：ロビン S. ビーリー
徳永幹雄 監訳
出 版 社：大修館書店
発行年月：2009 年 5 月

コーチングに役立つ実力発揮のメンタルトレーニング

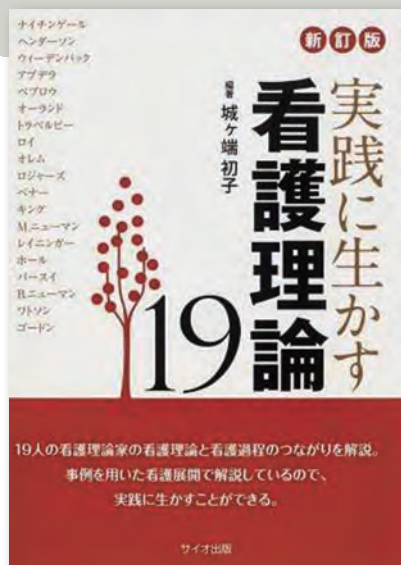
教育学部 助教 山口 幸 一

徳永幹雄さんの著書のキーワードとしては、スポーツ心理学、メンタルトレーニング、実力発揮、のものが多くみられます。

今回、紹介するのはロビン S. ビーリーの著書を徳永幹雄さんが監訳したものです。本書は、スポーツ選手の実力発揮を目的としたメンタルトレーニングを指導する（コーチング）視点から様々な事例を用いながら、指導法を具体的にわかりやすく説明したものです。今までにスポーツ活動の経験がある方や今でも継続されている方は試合で実力の発揮について考えたことはないでしょうか。読み応えのある本書でスポーツとメンタルトレーニングの関係性や、今後指導者の立場になったときに本書の指導法を用いてみては如何かと思い紹介します。

新訂版 実践に生かす看護理論 19

看護学部 教授 阿部 芳江



看護理論はナイチンゲールによって基礎が築かれ、20世紀のアメリカで研究・開発、現場で活用されて発展してきた。看護理論の多くは、アメリカの理論家たちによって開発されたといえる。一方、看護過程は、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価という5つのステップをたどる。看護実践に理論が必要な理由は、「実践」と「理論」は表裏一体で、双方そろって初めて看護の本質に沿った実践となるからである。本書は構成の随所に工夫がされている。理論家の人となりや活動、理論の生まれた背景等、理論を図表で解説、看護理論と実践について各事例を用いて説明していること等である。「看護理論は難しい」という声をよく耳にするが、本書で看護理論家に親しみ、理論を自分のものとし、楽しく看護実践に生かしていただければ幸いに思う。

著 者：城ヶ端初子
共 著 者：山田光子・阿部芳江ほか
出 版 社：サイオ出版
発行年月：2013年3月

地下鉄 –Sound Of Colors–

看護学部 助教 蔭谷 陽子

著者は、台湾に一大絵本ブームを巻き起こした台湾在住の絵本作家である。視力を失い、閉じこもるだけだった生活から、一步を踏み出した少女の物語。幸せって何だろう、「あきらめ」「希望」「悲しみ」「喜び」…。どんな世界に生きていても困難や苦難にぶつかる、その時迷いさまようかもしれない。しかし、さまようことも悪いことでもない。大切なのはその経験での気づき。誰かに助けを求めてもいい。自分一人で這い上がろうと思わないで。そこで、一步踏み出す勇氣、それが大切なのである。目標に向かって突き進むのもいい。「たまには ゆっくりすわって 未来を語ろう」 勉強などで少し疲れたかな…と思った時、この美しい情景が描かれた物語の中で、ちょっとひと休みして旅をしてみませんか？旅が終わった後、きっと「また、頑張ってみようかな」と思えることでしょう。



著 者：ジミー（幾米） 著
宝迫 典子 翻訳
出 版 社：小学館
発行年月：2002年11月

図書館の取り組み

古本掘り出し市 with 赤穂高等学校図書部
(協力：赤穂警察署、赤穂市民病院)

H29年度汐風祭において、本学図書館と兵庫県立赤穂高等学校図書部との共催、赤穂警察署、赤穂市民病院のご協力により古本市を開催しました。

この日のために提供された本や雑誌、保存期間を過ぎた図書館資料など2,485点を図書館内にそろえ、2日間で560点を販売しました。収益金30,900円全額を全国学校図書館協議会へ、また、本の一部(18,092円相当)を「ホンデリング～本でひろがる支援の輪～/全国被害者支援ネットワーク」へ寄付しました。

学生選書

「学生選書」とは学生の目線で図書館に置く本を選ぶ企画です。教育後援会のご協力をいただき、H29年度は2回、社会福祉学部・発達教育学部・看護学部あわせて計12組の学生がおすすめの本や読みたい本を選び、POPを作成しました。『蜜蜂と遠雷/恩田陸著』や『恕一ひとに求めない生き方/円純庵著』などが選ばれ、人気の高い本となっています。

学生のおすすめ本

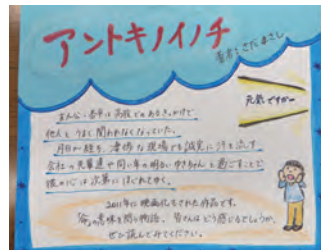


アントキノイノチ

社会福祉学部 4年 浅井 光

著 者：さだまさし
出 版 社：幻冬舎
発行年月：2009年 5月

〈学生作成POP〉



主人公・杏平はある同級生の「悪意」をきっかけに二度、その男を殺しかけ、高校を中退して以来、他人とうまく関われなくなっていた。しかし、ある会社で働くうち彼の心は変わってゆく。

主人公の現在と過去が交互に描かれていて、最後には今につながるストーリーになっています。

過去に何があったのか。

仏さんの忘れ物の天国への引っ越し屋さんとは。

「命」の意味を問われます。また人間関係について、皆さんも思い当たるところがあるかもしれません。ぜひ読んでみてください。



明日の記憶

社会福祉学部 3年 中村 愛里沙

著 者：荻原 浩
出 版 社：光文社
発行年月：2004年 10月

〈学生作成POP〉



仕事と家庭を持ち、娘の結婚式を迎えようとしていた50歳の男性。しかし、そんな彼を病魔が襲う。診断名は『若年性アルツハイマー』。病気に立ち向かおうとするも、少しずつ失われていく大切な記憶。その時、彼は何を考えたのか。

主人公の男性の視点で書かれているからこそ、複雑で繊細な心情が描かれています。若年性アルツハイマーを発症してから少しずつ変わってくる周囲との関係性、支えてくれる家族など、読み進める中でたくさんの感情が生まれてきて読んでいると胸がいっぱいになります。

このように、本書は若年性アルツハイマーという病気への理解を深めることができ、主人公の感情や思いに触れることができる素敵な1冊です。

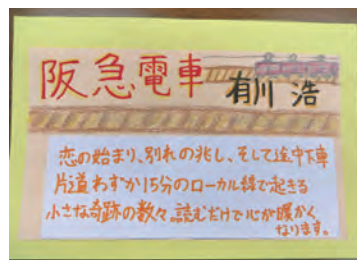


阪急電車

社会福祉学部 3年 中田 乃愛

著 者：有川 浩
出 版 社：幻冬舎
発行年月：2010年 8月

〈学生作成POP〉



この本は、阪急電車のローカル線を舞台にした話で片道15分ぐらいの短い時間の中で偶然同じ車両に乗り合わせた人たちが様々な人間ドラマを起こし、人生が少しずついい方向に変わっていくという話です。

電車という身近にあるもので起こる人間模様にと人々との出会いはとても大切なものなんだと感ずることが出来ます。一駅ごとに区切ってある短編集なので読みやすいです。よかったらぜひ読んでみてください。

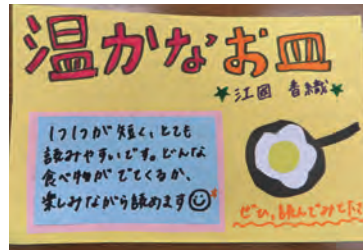


温かなお皿（メルヘン共和国）

社会福祉学部 3 年 板 橋 知 夏

著 者：江國香織
出 版 社：理論社
発行年月：1993 年 6 月

〈学生作成 POP〉



この本は、1月から12月までの食べ物めぐり、様々な主人公たちが繰り広げる12編の短編小説からなっています。普通にありそうな話ですが、江國香織さんらしい不思議な魅力あるストーリーになっています。

12編の物語の中で私の1番のお気に入り、朱塗りの三段重です。妻が夫の両親に喜んでもらうため頑張って作ったおせち料理、その三の重に入っていたものは……。驚きのものでした。

素敵な本なので、ぜひ読んでみて下さい。

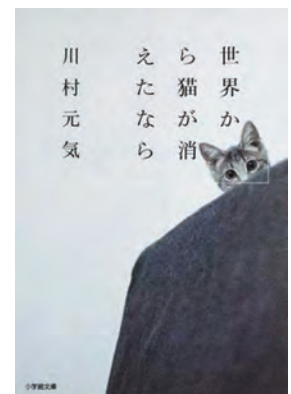
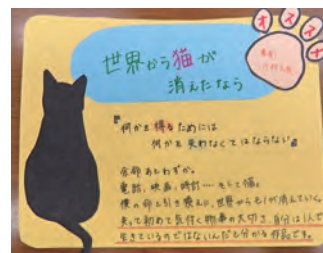


世界から猫が消えたなら

教育学部 3 年 藪 内 亜 耶 香

著 者：川村元気
出 版 社：小学館
発行年月：2014 年 9 月

〈学生作成 POP〉



主人公は、郵便配達員として働く30歳の「僕」。ちょっと映画オタク。猫と2人暮らし。

そんな僕がある日突然、脳腫瘍で余命わずかであることを宣告される。絶望的な気分が家に帰ってくると、自分と全く同じ姿をした男が待っていた。

その男は自分が悪魔だと言い、「この世界から何かを消す。その代わりにあなたは1日だけ命を得る」という奇妙な取引を持ちかけてきた。

僕は生きるために、消すことを決めた。電話、映画、時計…僕の命と引き換えに、世界からモノが消えていく。僕と猫と陽気な悪魔の7日間が始まった。



君たちはどう生きるか

社会福祉学部 2 年 樽 井 友 宏

著 者：吉野源三郎
出 版 社：岩波書店
発行年月：1982 年 3 月

〈学生作成 POP〉



この小説が最初に発刊されたのは、1937年で日本にも戦争が影を落とし始めていました。もちろん、思想や言論の自由も失われていたはずですが、ヒューマンイズムをテーマにわかりやすく書かれています。

また、これまでに何度も修正がなされ、近年漫画版と共に再発行されて読みやすくなりました。

いじめや貧困・勇気など、今にも通じる課題で悩むコペル君と、交換日記で応援する叔父さんの物語。ぜひ読んでみてください。

自分たちはどう生きるのか。答えは自然と見つかるはずです。

学生の書評が週刊読書人webに掲載されました

私立大学図書館協会「学習支援プロジェクト」主催の「週刊読書人 ～書評キャンパス 大学生がススめる本～」に社会福祉学部2年瀧口有規子さんの書評がwebで掲載されました。おススメの本は『カエルの楽園／百田尚樹著』。好評を博したこの企画、記念トークイベントが武庫川女子大学附属図書館（H30年5月26日（土）15：00～16：30）で開催され、瀧口さんがゲストスピーカーとして登壇しました。200名を超える来場者の中、瀧口さんは「感想文しか書いたことがなかったから、最初は難しかった。自分の思いを言葉にして他人に伝えるのは大変だった」といった苦労話をユーモラスに語り、会場を沸かせました。



情報発信

図書館データ

- 蔵書数 74,807冊（うち外国書9,927冊）
- 年間受入図書 812点
- 年間受入雑誌数 216種（うち外国書69種）
- 年間受入新聞種数 12種（うち外国紙3種）
- 視聴覚資料 3,261点
- 年間館外国人貸出 12,003点
（うち学生貸出冊数9,088冊）
- 年間入館者数 48,214人
- オンラインデータベース 10種
- 開館時間 授業日・平日 9：00～21：00
土曜日 9：00～17：30
（2018年3月31日現在）

金光図書館「荒木美智雄文庫」への寄贈

荒木美智雄先生はシカゴ大学大学院にて宗教学を学ばれ、本学ではH18年4月からH20年12月まで学長を務められました。荒木元学長に關係する資料を集め、広く一般に利用していただくため金光図書館に「荒木美智雄文庫」が開設されました。文庫開設に伴い、荒木元学長が本学に遺された図書2,235点を贈呈し、金光図書館にてH30年3月16日に贈呈式典が行われました。

地域連携

赤穂市立図書館と本館共同で「おすすめえほん」をテーマに「こどもの読書週間」にあわせH30年4月14日～5月31日の間、各館で企画展示を行いました。学生が作成した楽しいPOPが本に添えられ、多くの来館者が目をとめていました。

お問い合わせ先 TEL：0791-46-2506（図書館）

図書館ホームページ <https://www.kusw.ac.jp/general/affiliated/library>

編集後記

H29年度よりパソコンルームのデスクトップ40台とカウンター用3台、検索用2台のパソコンが新しくなり、パソコン利用者も増えています。

また、H29年9月18日には東備西播定住自立圏形成推進協議会の関係を通じて「秦氏を考えるシンポジウム2017ー地域と歴史資源」（事務局：赤穂市立図書館）に実行委員として参加し地域の文化を深く学ぶことができました。

最後になりましたが、今回も教員・学生の皆様に様々な本をご紹介いただきました。ご協力いただきありがとうございました。

(T)